



福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	風評被害に関する消費者意識の実態調査における放射線知識の時系列変化
Alternative_Title	Survey on chronological change in consumer awareness of harmful radiation rumours
Author(s)	島内 恭子(東京電力ホールディングス), 樋口 洋子(東京電力ホールディングス), 中山 和美(東京電力ホールディングス) Shimauchi, Kyoko(Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc.); Higuchi, Yoko(Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc.); Nakayama, Kazumi(Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc.)
Citation	第7回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.88 The 7th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	ポスターセッション: 保管貯蔵、野生生物、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション、その他
Text Version	Publisher
URL	https://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/157522
Right	© 2018 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第7回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。



風評被害に関する消費者意識の実態調査における放射線知識の時系列変化

○島内恭子, 樋口洋子, 中山和美 (東京電力ホールディングス株式会社)

1. 背景・目的

消費者庁は、平成 25 年から平成 30 年 2 月まで半年ごとに「風評被害に関する消費者意識の実態調査」を実施している。この調査の放射線の知識を問う設問、放射線に対するリスクの受け止めを問う設問に着目した。放射線知識とリスクの受け止め方の関係を時系列に分析し、その関係性を把握した。

2. 方法

消費者庁の調査は、被災県及び被災県産農林水産物の主要仕向先県等の 11 都府県、20～60 代の男女（有効回答数 5,176 人）を対象にしたインターネット調査である。設問の中から、放射線の知識を問う 4 つの設問（表 1）に注目した。放射線知識、基準値、検査等についての設問で、回答者が「知っている」と回答した項目数を積み上げたものを、個人の放射線知識として得点化した。

これに、「あなたは、放射線による健康影響が確認できないほど小さな低線量のリスクをどう受け止めますか」を五択で回答する設問（表 2）とでクロス集計を行い、リスクの受け止めごとに、放射線知識の変化を時系列でまとめた。

3. 結果・考察

リスクの受け止めごとの知識の平均得点を図 1 に示す。平均得点は、①～⑤すべてで時間経過とともに低下している。リスクの受け止めの分類で比較すると、②情報がなためリスクを考えられないグループの平均得点が一番低い。③リスクを受け入れられる、④ことさら気にしないグループは、全体平均よりも平均得点が高い。

第 1 回と第 11 回の得点の分布を図 2 に示す。②のグループの得点分布において、第 1 回に比べて第 11 回では、0～1 点の回答者数が増え、放射線の知識量が低下している傾向が見られた。これらから、放射線知識量は、リスクの受け止め方に影響を及ぼしている可能性が高いといえる。放射線知識を増やすことで、②情報がなためリスクを考えられないグループが③リスクを受け入れられる、④ことさら気にしないへ変化していくことが示唆される。

【謝辞】分析に用いたデータは、消費者庁から提供いただきました。記して感謝の意を表します。

表 1 放射線の知識を問う設問

No	内 容	設問数
1)	放射線、放射性物質、放射能について	7 問
2)	放射線が人体に与える影響について	7 問
3)	食品中の放射性物質の基準値について	7 問
4)	食品中の放射性物質の検査の情報について	6 問

表 2 リスクの受け止め方の五択設問

グループ	設問内容
①	基準値以内であっても少しでも発がんリスクが高まる可能性があり、受け入れられない
②	十分な情報がなため、リスクを考えられない
③	基準値以内であれば、他の発がん要因（喫煙、毎日 3 合飲酒、痩せずなど）と比べてもリスクは低く、現在の検査体制の下で流通している食品であれば受け入れられる
④	放射性物質以外の要因でもがんは発生するのだから、ことさら気にしない
⑤	その他

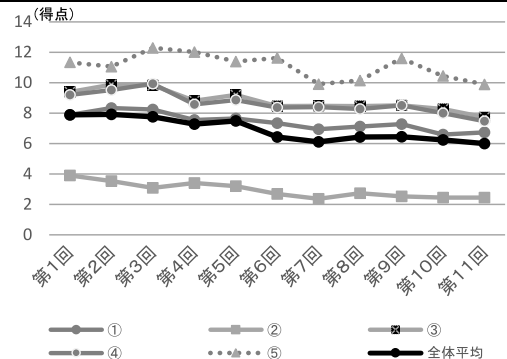


図 1 リスクの受け止めごとの放射線知識平均得点

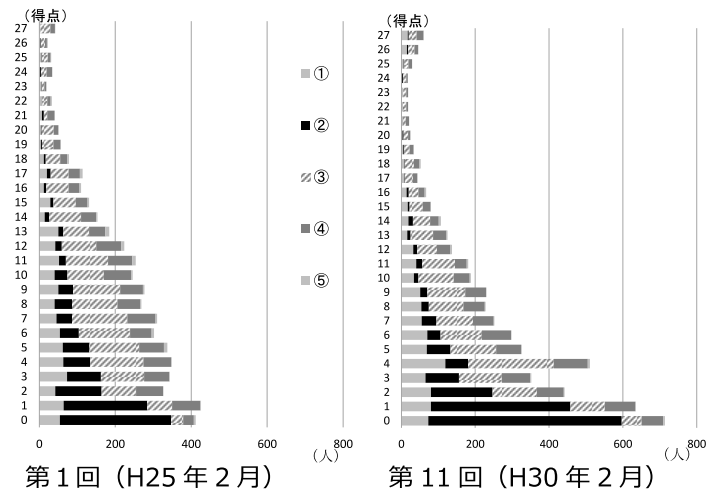


図 2 リスクの受け止めと放射線知識得点の分布